

小学校 3年 道徳の時間 学習指導案

「相手の気持ちを考えた発言や行動」

日 時：平成 年 月 日（ ）

場 所：

授業者： 教諭 吉本 仁

1 主題名

もっと好きになったよ 2－（3）友情・信頼
資料名「たまちゃん、大すき」（東京書籍）

2 主題について

（1）ねらいについて

本主題は、内容項目2－（3）「友達と互いに理解し、信頼し、助け合う。」の価値、『互いに関わりあうことで相手を理解すること』を目標としている。授業や休み時間など、共に同じ時を過ごす中で、相手を支えたり、助けたりすることによって友情の大切さを知り、そして将来にわたって、心豊かな生活を送るためにも、小学校の早い段階で好ましい友人関係をつくる能力を培うことは重要であると考えます。

夏休み明けから、学校は運動会の練習が始まり、暑い中、様々な練習を毎日のように行った。きつく、つらい練習のときにも支えてくれる友達がいると練習にも身が入り、集団演技や活動を通して、よりよい人間関係づくり・クラスづくりをしてきた。

人との関わりが増えるこの時期は、情報社会で適切に活動するための基となる考え方や態度の基礎を学ぶのによい機会であるので、自分の行動が引き起こす他者への影響、人権意識、自他の権利の尊重、自分の行動に責任を持つことなどについての指導を適宜行うこととする。

（2）児童の実態について（〇〇人）

- ・休み時間に友達と遊びますか。 遊ぶ〇〇% まあ遊ぶ〇〇% あまり遊ばない〇〇%
- ・悩みがあるとき誰に相談しますか。 友達〇〇% 親〇〇% 先生〇〇% その他〇〇%

毎日、教室からあふれんばかりの大人数で授業を行っている。たくさんの元気のよい男の子たちがクラスに活気を与えてくれる半面、物静かな子どもたちは、大人数の中ではあまり目立たない傾向がある。一緒に遊ぶ友達が、悩みを相談できるまで親しくなっている児童はあまり多くない。好ましい人間関係をつくるため、授業で相手の気持ちを考える場を設定することが必要となると考える。

（3）資料について

たまちゃんとまる子は、タイムカプセルをつくることにした。神社の木の下に埋める約束をしたが、たまちゃんはお母さんに留守番を頼まれたため行くことができなかった。事情を知らないまる子は悲しくなって、タイムカプセルを土手に投げ捨てた。翌日、たまちゃんは謝ったがまる子は許さず、たまちゃんが傷付く言葉を言ってしまった。

まる子が家で母親にお鍋の火を見ているよう頼まれた時、おじいちゃんからテレビを見ようと誘われたがそれを断った。その時、たまちゃんの気持ちがやっとわかり、タイムカプセルを探しに行った。また、たまちゃんは、ピアノのお稽古の帰り道に、寒い中待っていたまる子の気持ちがわかった。その後、土手で会った二人は互いに謝り合い、新しいタイムカプセルを作った。

本資料は、子どもたちみんなが知っているテレビのキャラクターを使った漫画中心の資料のため、子どもたちは理解しやすく、登場人物の表情から心情を読みとることができるので、児童にとって自分の課題として受け止めやすい教材である。また、学習に対し、困難を覚える児童も授業に参加しやすいと考える。

(4) 指導にあたって

- ・紙芝居のように資料提示を行い、児童の素直な初発の感想をもとに授業を進めていく。
- ・内容をより詳しく理解するために、ロールプレイを行い、それぞれの立場での思いや考え方には様々なとらえ方があるということを指導する。
- ・児童の発達段階や学習参加に困難さが見られる児童に対応するため、資料と自分の経験とを比べさせ、共感させたいうえで、本時のねらいに迫る場面を設定する。
- ・友達との間に何か問題が起こったときには、自分の気持ちだけでなく、相手の気持ちを考え、素直に思っていることを相手に伝えることも大切であることを指導する。

(5) 情報モラル教育の視点から

ア 本時は、「モデルカリキュラム」の目標「1 情報社会の倫理」、項目「a 2-1：受け手の気持ちを考えて情報発信する」との関連を重視して展開する。

イ 情報モラルの内容については「意識化」の観点から、情報モラル教育の基本的資質となる道徳的心情を培う。

ウ 互いに信頼し、友情を保つためには、受け手の気持ちを考えて行動することが情報社会における態度であることを理解させる。

(6) 人権教育の視点

ア 自分の考えに自信をもって発表できるような支持的風土づくりに努める。

イ 他の人の意見も尊重しながら、ともに学習しようとする態度を育てる。

ウ 相手の気持ちを考えた発言や行動ができるように日ごろから継続指導しておく。

3 本時の学習 (1 / 1 時間)

(1) 目標

友達と互いに理解し、信頼し、助け合おうとする態度を養う。

(2) 展開

過程	学習活動と主な発問	児童（生徒）の反応	指導上の留意点と評価	備考
導入 15分	①友達とけんかしたことを話し合う。 「友達とけんかした時、どんな気持ちがしましたか。」 ②「たまちゃん、大すき」の話を聞き、初発の感想を書く。	<ul style="list-style-type: none"> ・くやしかった。 ・悲しかった。 ・いやだった。 ・ちゃんと話をすればいいのに。 	<p>自分の経験を発表させ、本時の目標への方向付けをする。自分と相手の考えが違いからけんかが起こることを確認させる。</p> <p>読むことが苦手な児童のために読んで聞かせる。</p>	
展開 25分	③「たまちゃん、大すき」を読んで、話し合う。 中心発問 まる子が、たまちゃんのことをもっと大好きになったのは、どうしてだろう。 「たまちゃんとまる子ちゃん役になって読んで、二人の気持ちを感じ、気づいたことを書きましょう。」 ④これまでの自分を振り返り発表する。また、友達の発表をしっかりと聞く。 「どんなときに友達を大切にしようと思いましたか。振り返って、思い出してください。」	<ul style="list-style-type: none"> ・たまちゃんの気持ちがわかったから。 ・たまちゃんのいいところに気づいたから。 ・たまちゃんは素直にあやまってくれたから。 ・失敗したときに励ましてくれた。 ・困っているときに助けてくれた。 ・悩んでいるときに、相談にのってくれた。 	<p>最初は個人で考えさせ、その後二人組でロールプレイ、全体での意見交換へとつなげていく。</p> <p>読み取りが苦手な感想をうまく書けなかった児童は、友達の発表が自分の考えに近いものであれば自分の感想として書き加えさせる。</p> <p>評価（記述） これまで自分が経験したことを思い出し、相手の気持ちを考えて行動することが大切であることがわかったか。</p>	学習シート
終末 5分	⑤先生の話を書く。		○教師の体験談を説話とする。 (わかりやすく短い話。)	

4 モデルカリキュラムの位置づけ

情報モラル	道徳, 各教科・特別活動 他
a2: 発信する情報や情報社会での行動に責任を持つ。	道徳 友達によさ「たまちゃん, 大すき」 2- (3) 友達と互いに理解し, 信頼し, 助け合う。 (本時)
b2: 情報に関する自分や他者の権利を尊重する。	
c2: 情報社会でのルール・マナーを遵守できる。	道徳 真心を込めて「あいさつをすると」 2- (1) 礼儀の大切さを知り, だれに対しても真心をもって接する。
d2: 情報社会の危険から身を守るとともに, 不適切な情報に対応できる。	道徳 社会のきまりを守る「それは, だれの作ひん」 4- (1) 約束や社会のきまりを守り, 公德心をもつ。 道徳 働くことの大切さ「公園ボランティア」 4- (2) 働くことの大切さを知り, 進んでみんなのために働く。
e2: 情報を正しく安全に利用することに努める。	総合 適切なコミュニケーション「掲示板の利用」 ・ 掲示板などのコミュニティサイトを利用する上でのルールやマナーについて理解し, 適切に利用できる。
f2: 安全や健康を害するような行動を抑制できる。	
g2: 生活の中で必要となる情報セキュリティの基本を知る。	
h2: 情報社会の一員として, 公共的な意識を持つ。	
i2: 情報社会の一員として, 公共的な意識を持つ。	道徳 温かい家族「ぼくのおばあちゃん」 4- (3) 父母, 祖父母を敬愛し, 家族みんなで協力し合って楽しい家庭をつくる。